

平成30年度 県立中央高等学校自己評価表

目指す 学校像	・地域の進学校として、地域住民や中学校から信頼される学校（きめ細かな学習指導・進路指導を行い、生徒の希望進路の実現を図る。） ・自律ある行動ができる生徒の育成に努め、明るい学校（生活の基礎である基本的な生活習慣を身に付けさせる。） ・心のふれあいを大切にできる学校（魅力ある特別活動と部活動の推進を図る。）				
昨年度の成果と課題		重 点 項 目	重 点 目 標		達成状況
○成果 ・進路実績 国公立大学合格 1名 私立大学合格 80名(延数) 短期大学合格 11名 専修学校合格 93名 公務員試験合格 6名 就職内定 100%達成 ・部活動実績（関東大会出場以上） ・第41回全国高等学校総合文化祭 みやぎ総文2017 詩部門参加 ・第21回スターリングテクノラリー MMクラス銀賞，S C 3 Vクラス銅賞 ・落ち着いた学校生活ときちんとした身だしなみやあいさつ ○課題 ・家庭学習の定着を図る方策 ・明確な進路目標を設定させる方策 ・自ら進んでマナーやルールを守る意識の喚起		1 学力の向上と主体的な学習の育成を目指した授業の展開	(1) わかる授業の展開及び生徒の進路希望に沿う学力向上を目指し、指導を工夫する。 (2) 公開研究授業による指導技術の向上を図る。 (3) シラバスの有効活用に努める。 (4) 家庭学習の習慣化を図る。		B
		2 幅広い進路希望を実現するための確かな学力・進路意識の醸成とキャリア教育・進路情報提供の充実、および個に応じた進路指導の充実（目標 進路決定率100%）	(1) キャリア教育の充実を図り、個々の生徒に応じた進路目標を設定する。 (2) 課外指導や模擬試験の計画的実施とフォローアップにより、学力の向上を図る。 (3) 進路ガイダンス、インターンシップ、大学見学会など進路実現に必要な体験の機会を多く提供する。 (4) 面談期間だけでなく、必要に応じ個別面談を行い、進路意識の把握、醸成を図ると共に進路情報を提供し、家庭と連携した進路指導を心掛ける。		B
		3 H R活動や学校行事、部活動への自主的な参加促進及び結果の広報	(1) 企画・運営を生徒中心にするなど、生徒の自主性を尊重した学校行事の運営を図る。 (2) 部活動の充実・強化を目指す。		A
		4 生徒一人一人の自律を促す段階的指導の充実による規範意識の高揚	(1) 頭髪・服装・挨拶・言葉遣いなども含めた基本的生活習慣の確立・定着を図る。 (2) 毎日の授業への心構えと安全・安心な生活環境の充実を図る。 (3) 生徒理解を深めるために教育相談等の有効活用を図る。 (4) いじめの未然防止、早期発見、早期解消に努める。		A
評価 項目	具 体 的 目 標		具 体 的 方 策		評価 達成状況及び次年度(学期)への主な課題
教科 国語	・基礎学力の向上		・漢字や単元ごとの小テストを実施し、基礎学力の定着を図る。 ・週末課題の設定など家庭学習の定着を図るための工夫をする。 ・自ら学ぶ力の養成を目指し、積極的に辞書を活用させる。		a a b A
	・読書指導の推進と記述力の向上		・長期休業中の読書感想文課題などを通して、本に親しませる。 ・読書感想文や各種論文のコンクールに作品を応募させたり、各種校内行事のレポートを作成させたりする。		b b B
	・基礎学力の向上		・図説資料や備品の積極的な活用、身近な話題や時事的な話題を用いた導入や発問、作業学習（中間巡視をとまなう）、問題演習等により、考える力と基礎学力の向上を図る。 ・成績不振者に対する補講や追試を通して、学習習慣の確立を図る。		a b B
	・受験指導の充実		・大学進学を目指す生徒を中心とした課外授業を充実させる。		b B
	・評価の工夫		・学習プリントやノートの提出、長期休業中の課題の提出等を通して、観点別評価の工夫を図る。		b B
	・生徒の実態に応じた指導計画の改善充実		・生徒の進路希望に応じて積極的に課外授業を展開する。 ・定期テストの不振者に補講を行う。		a b A
	・基礎学力の向上		・確認テストや発問を多くし、基礎学力の定着を図る。 ・数学技能検定を年2回以上行い、多くの合格者を出すように努める。		a b A
	・家庭学習時間の確保		・宿題や週末課題を出して家庭学習の状況や理解度を確認する。 ・長期休業中の課題を通し、安定した学力を維持する。		a b A
	・評価の工夫と改善		・定期試験、宿題、長期休業課題、授業態度等を通して、観点別評価の工夫を図る。		b B
	・多角的な授業の展開		・授業での生徒実験、演示実験の機会を増やす。 ・I C Tを活用して授業を行う。		b b B
理科	・校外授業や放課後等の課外実験など、多様な学習形態を試みる。		・校外授業や放課後等の課外実験など、多様な学習形態を試みる。		b b B
	・進学希望者への対応		・学年主体の課外の他に、個別で生徒対応の指導を行う。		b B

教科	保健体育	・運動の楽しさの体験と生涯スポーツへの継続	・選択制の授業形態の充実により、様々な種目選択を可能にし積極的な活動を促進する。	a	A	・授業は、積極的に取り組む生徒が多かった。継続的に活発な授業の展開を実践する。 ・観点別評価の共通理解のもと評価することができた。評価項目の理解を深め、指導に生かすことが課題である。	
		・運動をととした体力の向上	・自己や周囲の健康、安全に配慮し、技能や体力の向上に努める。 ・体ほぐし、体作りの運動を取り入れ、筋力や持久力、柔軟性といった基礎体力を高める授業内容を実施する。	a			
		・評価方法の工夫	・観点別評価を導入し、意欲、興味関心、技能などの面から評価を行う。	b			
		・自己の体力の向上	・体力テストの結果により、自己の体力の特性を理解し、自ら改善の運動処方に取り組む姿勢を育てる。	b			
	芸術	・健康と安全についての総合的理解、健康の保持増進	・視聴覚教材を有効に利用し、具体的な情報を得ながら、興味・関心を持たせるよう工夫する。 ・健康診断や身体測定の結果等から自分の健康状態を把握させ、健康処方を作成する。	a b	A	・生徒の演奏を指導段階毎に録音し聴かせることで、更に良い演奏にするために何が必要かを考えさせることができた。 ・苦手意識を持つ生徒の関心を高める。 ・実制作では集中して取り組めた。実制作の前の構想をする段階でも、集中して取り組めるような進め方を工夫する。	
		・＜音楽＞創造的で柔軟な発想力及び健全な芸術的判断力の養成	・コーラスや楽器による豊かな表現などを学び、音楽的な感性を磨く。 ・小アンサンブルによる活動に関心を持たせ、声部の役割と全体の響きとの関わりを理解し、積極的に取り組む。	a a			A
		・＜美術＞基礎的な技術する心情や豊かな感性の育成	・素描や塑像などの基礎的な課題から創作技術の向上を図る。 ・絵画、彫刻、混合技法などの創作活動を通して芸術と生活の関連性を理解し、芸術を愛する心情を養う。	b b			
		外国語	・基礎学力の向上	・単元ごとの小テストの実施、ノートや課題の提出を通して基本事項の定着を図る。 ・学習習慣の定着のために家庭学習用の課題を与え、定期的に点検し、評価を加える。			a b
	・実践的英語力の向上		・（1年生）外部試験の導入について検討し、授業や課外授業に効果的な指導を導入する。 ・（2・3年生）英検の受験を奨励し、合格のための支援（一次・二次試験対策）を実施する。	c a	B		
	・生徒の実態に応じた指導計画の改善と充実		・生徒の実態に応じた授業展開と、生徒の取組を総合的に判断した評価に努める。 ・生徒の理解状況を把握し、不十分な生徒には個別指導を実施する。	a b		B	
	家庭		・基礎技術及び実践的態度の育成	・短時間で効果的に行えるよう実習内容を工夫する。また、ホームプロジェクトや学校家庭クラブ活動を通してより主体的な実践活動に取り組むよう促す。	a		A
		・評価方法の改善を図る	・実習時の活動の評価について適切な評価ができるよう、観点別評価を取り入れた評価表の作成を試みる。	b	B		
	情報	・情報社会に参加する態度の育成	・コンピュータや情報通信ネットワークなどの活用を通して、情報を適切に収集・処理・発信できるようにする。	b		B	・情報の処理・発信はできたが、より充実させることが課題である。
		・情報活用能力の育成	・プレゼンテーション能力の向上を図るため、生徒発表会等を実施する。	b			
教務	・わかる授業の展開	・公開授業等の相互研修の機会を増やし、教科指導法の工夫と研究を行い、授業の質的向上を図る。 ・生徒による授業評価を実施し、指導力向上の参考とする。 ・アクティブラーニング校内研修を実施し、教員全体の指導力向上を図る。	b b b	B	・わかる授業の展開は、概ね達成できた。学習意欲を喚起する指導、家庭学習の定着化、上位者や下位者への個別の対応が必要である。 ・教員相互の授業参観等を実施できた。高大連携授業等特色ある行事が予定通り実施した。 ・海外派遣は韓国研修のみとなった。中国研修の実施が課題である。 ・学校説明会、中央だより、HP更新、学校・学習塾訪問等、丁寧な広報活動ができた。 ・年間行事計画に従い、各行事の準備運営を滞りなく実施できた。		
	・学力の向上を目指した指導の工夫	・成績不振者の指導と成績中位・上位者への学習意欲のなお一層の喚起を図るため、教科・学年・校務分掌間の連携を図り、学力の向上に努める。	b			B	
	・シラバスの活用と評価	・シラバスに沿った計画的な進捗と達成状況を確認し、積極的に観点別評価に生かす。	b	B			
	・家庭学習の習慣化	・生徒の家庭学習時間を確保するために指導法を工夫し、課題（宿題）等を計画的に与えて、家庭学習の習慣化を促す。	b			B	
	・特色ある教育活動の充実	・海外の学校との交流、中国上海・韓国での語学研修、スポーツ科学コースにおける大学との連携授業など、特色ある教育活動を充実する。	b	B			
	・年間行事計画の充実	・教員・生徒が高い目的意識を持って学校生活に取り組めるよう、年間行事の充実並びに円滑な実施のために校務分掌間の調整を行う。 ・魅力ある学校行事を取り入れ、学校を活性化する。	a b			A	
	・LHR、授業等の活用に応える図書室の充実	・関連教科の担当者に利用を呼びかけ、対応した関連展示コーナーを作成する。	b	B			
	・生徒の図書館利用の活性化	・生徒・職員の図書購入希望調査を年2回以上行い、図書・資料の充実を図る。 ・読書の推進を図るため、「図書だより」を年間8回以上発行する。	a b			B	
	・図書委員による昼休みの貸し出し業務の円滑化	・図書委員による昼休みの貸し出し業務を円滑に行う。	a	B			
	・図書委員の自主的な活動の奨励	・図書委員が自主的に校外研修に参加することを奨励する。	a			A	

進路指導	・課外指導等の充実	・課外授業を充実し、学習習慣と学力の定着を図り、高い進路実現を目指す。	a	A	・進路指導を含めたキャリア教育の充実はある程度達成されている。より実際的な内容を取り入れた指導の充実を図る。 ・新入試制度や進学費用の問題など生徒・保護者への情報提供及び対策を検討し、実践することが課題である。
	・インターンシップの充実と進路意識の高揚	・放課後の平常課外や土曜課外に積極的に参加する。	b		
	・進路指導内容の充実	・インターンシップを通して職業観の育成と自己の適性の確認を図る。	a		
		・総合的学習の時間等を有効利用する。	b		
	・面談指導の充実	・校外模試を計画的に実施し、その結果を次の指導に活かす。	a		
生徒指導		・大学説明会や大学見学会へ積極的に参加させ、志望校決定など進路決定の一助とする。	a	A	
		・精選した最新の進路情報を提供する。	b		
		・定期的な面談習慣だけでなく、生徒との個別面談の機会をできるだけ多く作り実施する。	a		
		・保護者面談等の機会に、充実した進路情報を提供する。	b		
			a		
	・基本的生活習慣の確立と安全安心な教育環境の整備	・定期的に頭髪・服装検査を実施し、高校生として好ましい頭髪や制服の身だしなみを確認・指導する。特に男子生徒の長髪や一部の刈り上げ（ツブブロック）等に注意を払う。	a		
		・校内巡視を定期的に実施し、安全・安心な教育環境の保全に努める。特に各学年の要望を聞き、おしゃべりや居眠り、携帯電話不正使用等の多いクラスを重点的に巡回する。	a		
		・さわやかマナーアップキャンペーンにおいて、生徒会役員や各学年生活委員及び保護者、地域住民、関係機関等と連携・協力して地域ぐるみで生徒たちを見守る体制を構築する。	b		
	・ルールの主體的な遵守と公共のマナーや規範意識の向上	・毎週火・木曜日8時10分～30分、羽鳥駅から学校までの通学路における登校指導を実施し、生徒指導全般（安全な自転車運転、身だしなみ、挨拶の励行）を確認・指導する。	a		
		・担任による面談指導を通して、マナーやルールを主體的に遵守できる精神の向上を図り、保護者との連絡を密にして、学校と家庭が一体となった円滑な生徒指導を行う。	a		
保健指導		・全校生徒を対象に講演会（交通安全教室、薬物乱用防止教室、携帯電話安全教室、制服着こなし教室）を実施することにより、マナーやモラルなど規範意識の向上を図る。	b	B	・おおむね服装・頭髪については校則が守られているが、さらに身だしなみの向上を継続する。 ・自転車通学者のマナーについても向上しており、継続して道交法遵守の徹底する。 ・各担任と家庭との連絡は密に行われ、保護者とのトラブルもなく連携協力ができた。 ・情報モラル教育を推進しているが、SNS関連の指導が増えている現状を踏まえ、指導の充実を図る。 ・いじめに関するアンケート調査の定期的な実施をする。
	・健康診断の円滑な実施	・情報モラル教育を推進する。	a		
	・教育相談の充実	・いじめを早期発見するため、年3回いじめに関するアンケート調査を実施する。	b		
		・インターネットを通じて行われるいじめに対する対応を迅速に行う。	b		
		・警察、児童相談所、法務局等の関係機関との連携を図る。	a		
特別活動		・事例研究を通して、いじめの対応方法について共通理解を図る。	a	A	・サポート体制は、達成できた。 ・不適應生徒などに対して校内支援体制を整備する。
	・望ましい集団活動を通じて心身の調和のとれた発達と個性の伸長を目指す	・事前の連絡の徹底と円滑な診断のためのサポート体制を整備する。	a		
渉外	・部活動の活性化	・担任との情報交換を行い、不適應生徒の早期発見・早期対応ができるようにする。	a	A	・予定された行事は十分に達成することができた。 ・来年度の歩く会・芸術鑑賞会を成功させる。
	・各種行事への保護者の参加率向上	・クラスの団結を図るため、文化祭（一般公開）を実施する。	a		
	・広報活動の活性化	・生徒の自主性を活かした野球応援を実施する。	a		
事務	・予算の適正な執行	・生徒の意欲を引き出すためにクラスマッチを実施する。	b	B	・3学年の進路説明会を併催し、総会の出席者数が増加した。総会の運営と出席者の確保が継続的な課題である。 ・施設は開校30年以上経過し老朽化が進行している。事故等が発生することのないよう日々の点検や早期改修に努めていきたい。
	・窓口等での適切な接遇	・部活動の様子や活躍をHP及び中央だよりに定期的に掲載し、PRを図る。	a		
	・施設設備の適正な管理	・PTA総会の日程中に3学年の進路説明会を開催し、総会への出席率の向上を図る。	a		
		・行事開催の3週間前には案内を配付できるように計画をすすめる。	a		
		・PTA会報「もにたあ」を9月下旬と2月下旬の年2回発行する。	a	A	
		・公金を扱っているという認識のもと適正な事務処理を行うことは勿論、コスト意識に基づき早期かつ効果的な予算執行に努める。	b		
		・学校の窓口業務及び電話等での対応を、より適切かつ丁寧に行うよう心がける。	b		
		・日々の業務の中で事務職員と技術職員の連携を図り、修理箇所への対応を早期に実施する。学校施設設備による事故が発生しないよう校内巡視等を強化する。	b	B	
			b		

第一学年	・基本的生活習慣の確立	・中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。 ・面談を重視し、生徒の長所や個性を把握し悩みや問題を早期に解決するように努める。 ・段階的指導を有効に展開し、落ち着いた生活環境づくりに努める。 ・情報モラル教育を徹底し、社会において適正な活動ができる考えや態度を身につけられるよう指導する。	a a a b	A	・生徒は落ち着いた学校生活を送ることができている。今後も段階的指導や面談の活用を継続する。 ・情報モラル教育の成果はあった。今後も継続させる。 ・基礎学力の定着に努めた結果、生徒の多くが学力や学習への意欲を高めることができた。家庭学習の定着化と上位者・下位者への個別指導を充実させ、更なる基礎学力の向上を図る。 ・保護者との連携に努めることで、協力を得られた。新入試制度などの情報提供の充実を図る。
	・基礎学力の向上	・英国数の朝ドリルを実施し基礎学力の定着を図る。 ・英語の基礎力養成を図る。1月の英検（第3回）3級・準2級合格率70%以上を目指す。 ・平日の放課後（週3回）、土曜日、長期休業日等に課外指導を実施する。 ・成績不振者への指導を徹底する。 ・校外模試の数値目標を、各科目平均偏差値45以上、平均偏差値50以上を15名、国語は25名以上、数学は15名以上、英語は10名以上とし、目標を目指して指導する。	b b c a b		
	・進路意識の高揚	・進路意識を高めるために進路講演会や出前授業を開催する。 ・オープンキャンパスや公開講座等へ積極的に参加させる。	c b b	B	
	・特別活動への積極的な参加 ・保護者（家庭）との連携	・積極的に部活動や学校行事に参加させ、集団生活の中での感動や充実感を体感させる。 ・保護者面談を充実させ保護者との意思疎通を図ると共に、情報の提供に努める。	b a		
	第二学年	・基本的生活習慣の確立	・中央高校生としてふさわしい挨拶・言葉遣い・服装頭髪ができるよう指導を徹底する。 ・面談を重視し、生徒の長所や個性を把握し悩みや問題を早期に解決するよう努める。	b a	
・基礎学力の向上		・英語の基礎力養成を図る。実用英語検定の合格者数を指標とし、3級・準2級・2級合格率70%以上を目指す。 ・進研模試の国数英総合偏差値（全国）と各科目の偏差値（全国）50以上を1年次と比較してそれぞれ5名以上の増加を目標をして指導する。	b c	B	
・進路指導の充実		・従来の進路講演会や出前授業などの進路行事に加え、進路別LHRや総合学習の時間を有効に活用することで、進路意識を高める。	b a		B A
・特別活動への積極的な参加 ・充実した修学旅行の実施		・中核学年としての役割を自覚させ、部活動や行事等に積極的に参加させる。 ・総合学習やLHRを利用したガイダンスを行うことで、充実した事前学習・平和学習や体験学習・事後学習を実施する。	a a	A A	
・保護者（家庭）との連携		・保護者面談を充実させ、保護者との意思疎通を図ると共に、進学保護者会等を実施し、情報の提供に努める。	a a		A A
第三学年		・生活指導の充実 ・キャリア教育の充実	・面談を重視し、生徒の長所や個性を把握することで、悩みや問題を早期に解決するよう努める。 ・進路別LHRを積極的に活用し、生徒それぞれの進路希望に応じた適切な指導を実践する。 ・進路指導部との連携を図り、生徒全員の進路希望を実現する。 ①国公立大学5名以上、私立大学・短期大学合格者80名以上を目指す。 中堅私立大学合格者10名以上、県内私立大学の一般試験合格者10名以上を目指す。 ②各種専門学校や医療看護系専門学校合格・就職内定率100%を目指す。	a a b	
	・学力の向上	・家庭学習時間の全体平均1.5時間以上、特進クラス平均4時間以上を目標とし、実現するための課題や学習計画指導の工夫をする。 ・平常課外や土曜課外、夏期・冬期休業中の課外への積極的な参加を促すと共に、最後まで受講する指導を徹底する。部活動終了後の課外参加率90%以上を目標とする。 ・目標値を設定したり、テスト後の解説を徹底し、模擬テストを有効に活用する。	b b b	B	
	・保護者との連携	・進路に関する保護者説明会3回以上実施し、保護者との連携を図る。	a		A

※評価基準 A：十分達成できている B：達成できている C：概ね達成できている D：不十分である E：できていない